

時代の要請として『永代供養墓』が増え、それが無縁墓の減少につながればうれしい！



誓念寺 第22代住職 吉田 修生さん

□写真右 (よしだ・しゅうせい)
1949年生まれ、熊本県出身。430年に及ぶ歴史を誇る、名刹『誓念寺』の22代目住職。昨今、急増しつつある無縁墓を少しでも減らしたいという思いから、永代供養墓の設立に共鳴。趣味は野球。

■誓念寺
宮崎市佐土原町上田島3896 TEL.0985-74-0211

□写真左 (こまつ・しゅういち)
1977年生まれ、美郷町西郷区出身。金融機関に務めた後、2011年5月に墓石、永代供養、お墓のリフォームなど、お墓のことを全般的に取り扱う『株式会社ひむかの社』を創業。将来の夢は「永代供養を宮崎全域に広げること」。

■株式会社ひむかの社
宮崎市大塚西ノ後3446-6 TEL.0985-53-8533
http://www.himukanomori.co.jp

太陽放談 第149回ゲスト

株式会社ひむかの社 代表取締役 小松 修一さん

超高齢化社会、核家族化、過疎化の三重苦にされされる本県にあって、新たな供養のスタイルとして、最近注目を集めているのが『永代供養墓』です。永代供養墓の供養を務める『誓念寺』の住職・吉田 修生さん、運営・管理を担当する『株式会社ひむかの社』の小松 修一さんにお話をうかがいました。いつかは、あなたも直面する問題の備えに！ 必読です！

お墓を守る人がいない、あるいはお墓参りをする人がいなくても、お寺や運営業者が責任を持って、永代に亘り供養と管理をしてくれる『永代供養墓』が宮崎でも増えているとか？

小松 弊社では、宮崎市内に佐土原墓、本郷墓、古城墓の3つの永代供養墓の運営・管理を行っています。お問い合わせは宮崎県内はもちろん、全国各地からいただいております。内容に関しては本当にさまざまですが、やはり多いのはお子さんが県外で世帯を構えて、宮崎にはご両親しかいらつしやらないケースですね。親御さんから、「将来的にお墓を守ってくれる人がいないので……」というご相談を受けることもあれば、逆にお子さんから「まだ、親は存命だけれど、先々のことを考えて」とご連絡をいただくこともあります。

吉田 永代供養墓が脚光を浴びると言いますが、話題になる背景には、少子高齢化や核家族化といった時代背景が横たわっています。もう家庭環境が昔とは違いますから、この流れは避けられないでしょうし、今後お墓を選ぶ際の選択肢に、永代供養墓を加える人はどんどん増えていくでしょう。実際問題、お墓を守ってくれる人がいない宮崎ご出身の方が、「久しぶりに墓参りも兼ねて」と帰省さ

れたとしますよね。けれども、草はポウボウと生い茂っているわ、花は朽ち果てて枯れているわでは、やはり気持ち落ち込んでしまいます。

小松 その点、私どもの永代供養墓では、月2回以上のご供養をご住職が、お花の取り替えや清掃を弊社が担当しておりますので、本当に線香や数珠のみお持ちいただければ、お参りができるようになっています。

吉田 もちろん、永代供養墓が選ばれるのには、経済的な側面も大きいでしょう。うちは本堂裏に空き墓地がありますので、本来であればそこを小松さんに売ってもらわんとイカンのですが(笑)、やはり普通のお墓を建てるとなると、それ相応の費用が必要になってくる。

小松 また、これは経済的な問題と家庭環境が相まって起きていることだと思っておりますが、私どもがいま一番心を痛めているのは、お墓を守る人がいなくなり、無縁墓に近いようなかたちで、墓地に取り残されているお墓が目に見えて増えていることです。そういったお墓の中で眠っていらつしやる仏さまをひとりでも多く救いたい。それが、かねてからのご住職の願いでした。私どもが永代供養墓をつくった、最も大きな目的も実はそこにあるのです。

通常のお墓と永代供養墓では、どれくらい費用が違うのでしょうか？

小松 普通のお墓に関して言えば、さまざまです。石種によっても違いますが、



誓念寺の本堂の目の前に位置する、永代供養墓(佐土原墓)。古城墓は目の前に鰐塚山がそびえ立つ、眺望がすぐれた場所にあり、本郷墓は空港の近くなので、帰省の行き帰りにお参りができる利便性を誇る。尚、お墓の扉は、通常は閉じられています(右ページ下参照)。

墓石は安いもので60万〜70万円。高いものだと、300万、400万といったものもあります。それに墓地使用料、宮崎市の市営墓地であれば、約50万円強がかかりますし、プラス毎月の管理費が必要となります。

これに対して、永代供養墓の場合は、お骨の安置期間50年で、必要な料金は永代供養料の30万円のみです。管理料、お花代は全て永代供養料に含まれていますので、追加料金は一切かかりません。ご希望があれば、安置の期間の延長も可能です。

いろんな時代背景があるにせよ、これまではお話をうかがっていると、今後はお墓そのものの捉え方自体が変わってきてそうな気もするのですが……？

吉田 捉え方うんぬんと言うよりも、そもそも墓自体の存在が、みなさんの頭の中から消えているのではないか、という気がしますね。その原因をつくつたのは私も含め、坊主、葬儀屋など、供養に係る人間の怠慢だと私は考えています。例えば、戒名。ご先祖さまの戒名の由来、あるいはどうやって戒名をつけるのかを知っている人は、あまりいないですね。私が戒名をつける場合は、まずその家のご先祖さまの戒名を全て調べます。その上で、故人の実績やどんな社会貢献をしたか、性格や趣味など、さまざまなことを勘案した上でつけています。なぜご先祖さまの戒名まで必要かと言えば、それは故人のからだは、故人だけのものではないからです。親からいただき、そ

の親は爺ちゃん・婆ちゃんからいただいたている。つまり、これまでずっと命がながって来た上に、いや、ご先祖さまからずっと命がながって来たからこそ、故人もこの世に存在したわけですよ。そういった話を供養に関連する人間が、きちんとみなさんに伝えていない。けれども、折に触れて……本当に、たまにいいんです。このような話を子どもや孫にしてあげることが、とても重要だと私は考えています。そして、それは大きな意味で言えば、心の在り方の問題にも通ずるのではないかと私は信じています。

小松 永代供養墓が、お墓やご先祖さま、命のつながりについて考える契機になり、少しでも無縁墓が減る動きにつながっていくれば、とてもうれしいですね。

※本取材は2013年 8月12日に実施したものです。